

ね。底地全部買ってしまったら、残るのは建物と土地だけで、信用保証協会は犠牲者になるかどうかでわからないですけども、私はやっぱり高度化資金も借りているし、県はこれをオジャンにしてもらっては困ると、困るのは県が困るんですよ、市も困りますけれども。だけでも、私は、県の方はそうやって、ここでお手上げしてもらっては困るので、その都度、必要があれば新しい名前ができて支援体制に入るんだと思います。

しかし、私は市の財政というのは限りあるわけで、毎年、地場産センターの方に出してる分だけでも大変なのに、これ以降、まだ続けてくれて言われたら大変なことだなあって思いますよね。そんなことはあり得ないと思いますが。13年に5,000万円を出すっていったときも、目黒市長は最初は「出しません」って言ってんですよ。正式な言葉で「出しません」と。9月の議会では5,000万円を出すことにしたんですね。

私は、やっぱりそういうことを考えていけば、どこかの時点で見切りをつける必要があるなっていうふうには思いますけれども、なかなかその方法も見つからないというのが現状だと思います。

地場産では「物産館のところをもっと改装しろよ」と、「改装してもうかるようにしろよ」と言ったにもかかわらず全くしてきてないですよ。その意味では、公的資金はこの辺まででもう終わりにしてもらいたいなというふうに私は思うんですけども、最後に市長の考え方をお聞かせ願いたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 公的資金の投入はこのぐらいでということですが、最終的に土地で終わりだと私も思っております。

ですから、ホテル部分については、やはり商工会議所さんで努力されて頑張らなきゃいけないだろうと。あと、私どもとしては、あそこの

施設はとにかく長井に人がいろんな形でおいでいただくと、外から。それで宿泊いただくというような催し物をしない限りは、黒字には決してならない施設でありまして、そういう意味では、今回、商工会議所の方に底地を私どもで、市で購入することによって、商工会議所本来の業務の中にいろんな地域との、あるいは国際交流も含めた部分がございます。そういったところに、ぜひ商工会議所として努力されて、県はもちろんですけども、県外のいろんな会議等、あるいはコンベンション機能を高めるような努力をいただきたいと。私どもも従来のいろんな事業に加えて、例えばことしから県の高校駅伝、長井で毎年と、これも宿泊を伴います。また、各種宿泊つきのいろんな会議を県の方からご協力、国からもご協力いただいて支援していくと。加えて観光振興コーディネーターという形で、いろんな観光客を市の方においでいただくような努力をしていくということが、これからの公的支援になるんじゃないかと。直接的な公的資金は、これが最後だというふうに私は思っております。

### 高橋孝夫委員の総括質疑

○**渋谷佐輔委員長** 次に、順位2番、議席番号10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** 私は、市民生活の向上を願いながら総括質疑を行います。

通告をしておる2点について質問申し上げますので、それぞれ明瞭な答弁をいただきますようお願いをしておきたいと思います。

質問の第1は、新しい指定ごみ袋についてです。この問題では、昨年6月定例会の一般質問でもお伺いしております。

ことし4月から指定ごみ袋の形状が変わり、

1枚当たりの価格が40円から50円に引き上げられたことはご案内のとおりです。可燃ごみと不燃ごみの大きさが、これまでの25リットルから30リットルと容量がふやされました。形状もこれまでの平袋タイプからレジ袋タイプというふうになりました。こういうものになったわけです。

新しい指定ごみ袋が導入をされてから、まだ半年はたってないわけですがけれども、市民の反響はどうなのか、それからさまざまな感想であるとか要望などが寄せられているのではないかなというふうには感じていますが、具体的にどうなのかについて、まず市民課長にお聞きをしたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 宇津木正紀市民課長。

○**宇津木正紀市民課長** 新しいごみ袋、特に可燃のごみ袋であります。市民の感想や要望ということでございますが、「以前のごみ袋よりも量が入らなくなった」、「ごみ袋を大きくしてほしい」という意見が一番多く寄せられております。また中には、可燃のごみ袋ですが、「裂けやすいので裂けにくいごみ袋に変更してほしい」という要望も受けておるところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** そのほかにはないですか、この大きく2点ということになるのですか。

○**渋谷佐輔委員長** 宇津木正紀市民課長。

○**宇津木正紀市民課長** 大きく2点でございます。ほかの町とか市では別な要望も出てるようですが、長井市の方では大きく2点でございます。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** この際ですから、置賜広域行政事務組合を構成しているほかの2市5町の中ではどうなのかについても触れていただきたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 宇津木正紀市民課長。

○**宇津木正紀市民課長** まず最初に、ロット数が

大きくしたものですから、小さな商店さんで購入しにくくなったという苦情が寄せられまして、これは変更してロット数を少なくしたということがございます。これ米沢市の方でございます。あとあるのが、水分が漏れたというふうなこととか、なぜ値上げをしたのかという件、これ5月11日の衛生主査会議の取りまとめた資料で、5月の初めごろまでのことで、まだ古いタイプのごみ袋が流通してて、新しいごみ袋がまだそんなに流通してないときのまとめで、それでもなぜ値上げしたのかっていうのが5件と、量が入らなくなった7件、裂けた、破けた8件というふうなことが置賜全体でまとめられてまして、報告されているところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** わかりました。

私もこのごみ袋を今使っているわけですがけれども、率直に申し上げて容量がふえたというふうには言われても実感がないです。それから2つ目は、取っ手ではなくて、真ん中でここを縛ろうとすると、簡単に破けるんです。あるいはちょっとした加減、力を加えたりすると、簡単に裂けるんですね。

今、ごみの収集場、私、うちでは係なものですから中央地区の場合はほぼ毎日行きます。毎週水曜日が可燃の収集日になっているわけですが、言われたように袋から本当にしみ出しているところがいっぱいあるんです。そういうのって、やっぱり今までとは違うのだなという感じを持ったところです。

2点目のところに移っていききたいと思います。が、広域広報おきたま、8月15日号ですけども、これが先月配付になりました。これを見ると、今回、「指定ごみ袋の取り扱いについて」って大きく1ページで取り扱っています。この内容ですけども、「レジ袋タイプに変更してから使い勝手がよくなったというご意見のほか、可燃ごみの持ち手のところから縦に裂けたり、

+

また破れやすいとのご意見などがあり、材質や形式について今後検討してまいります」と、こうなっておるわけです。

これは多分、先ほど市民課長から報告があった各構成市町からの要望あるいは苦情、苦情とのかどうかわかりませんが、これらを受けて何とかしなきゃならないというふうになったんだと思うんですが、具体的にどういったこの検討がなされているのかについて、市民課長からお聞かせをいただきたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔委員長** 宇津木正紀市民課長。

○**宇津木正紀市民課長** 置広では、ただいまのような置賜地区全体から要望とかご意見が出ていましたので、このような結果を受けまして、ほかの行政事務組合が使用しているごみ袋との比較、分析後検討を重ねてきたところでございます。

現在使っている可燃ごみの袋の材質は、「高密度ポリエチレン」といまして、これは裂けやすいという弱点を持っています。それに比べて不燃ごみ袋とか資源ごみ袋で使われているのは「低密度ポリエチレン」でございます。低密度ポリエチレンは、高密度ポリエチレンと比較しまして、やわらかく伸びやすく、ごみ袋が裂けた、破けたという意見に対応できるものと考えていますし、また、厚さについても検討をしてきたというところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** きのう付で、「指定可燃ごみ袋の材質変更について」という、これは厚生常任委員の皆さんに市民課長名で配布をされたものを私もいただきました。これでいうともう少し具体的にどうなるんですか、高密度と厚さはわかりましたので、具体的に何をしようとしているのか、どうしようとしているのかと、いつからこの変更をしようと考えているのかについてお聞かせいただきたいと。

○**渋谷佐輔委員長** 宇津木正紀市民課長。

○**宇津木正紀市民課長** 今週の月曜日、9月13日でしたが、置賜広域行政事務組合理事会が開催されました。そこで懸案だった指定可燃ごみ袋の材質の変更について協議されたところでございます。

その結果、今まで検討してました指定可燃ごみ袋の材質を高密度ポリエチレンから低密度ポリエチレンに変更しまして、大袋30リッターについては、厚さがこれまで0.025ミリだったんですが、それを厚くしまして0.035ミリに変更と。小袋の方も20リッターですが、こちらの方も0.025ミリから0.035ミリに変更することが決定されたということでございます。

これによりまして、裂けにくいとか破れやすいとか、または漏れるということがかなり解消されるものだと思っております。

また、実施時期については、現在の可燃ごみ袋が12月ごろ、早いもので品切れとなりそうな状況なものですから、12月を変更の時期に予定しておるということでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** わかりました。

申し上げましたように、これやっぱり薄いんです。これ山形市や山辺町、中山町で使っている袋です。これは去年も6月で聞いたとき示しましたけれど厚いんですよ、これ。少々乱暴に扱っても大丈夫ということと、ここにまちがない、平袋に取っ手をつけただけという、だからこれは大きいんですけども、こういうふうになっています。大体こういうものになるという、いや、まちは別にしてですよ、厚さはこのようになると、大体この程度になるというふうな理解でいいのですか。

○**渋谷佐輔委員長** 宇津木正紀市民課長。

○**宇津木正紀市民課長** 新しいごみ袋については、山形市と同じ厚さの0.035ミリだというふうにお聞きしております。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** わかりました。

この材質については、私は今回、ある程度改善をされるのだなという理解をしているところですが、容量の問題、これについてはやっぱり疑問なんです。容量はふやしたんだというふうに言ってるわけですけども、実際やっぱり入らないじゃないかという声は私も聞いておりますし、実感として私もそう思うんです。

ことしの5月の24日の厚生常任委員会協議会に、市民課から示された資料で、「ごみ袋形状変更に係る意見等」というのが資料として出されました。

これですが、これをちょっと紹介をしますけれども、平袋タイプのごみ袋が結びにくいとの指摘があり、平成22年4月から結びやすいレジ袋タイプに変更になり、あわせて大きさも変更になりました。括弧して、値段相当分大きくなりました、こうあります。当市には、現在、苦情などは余り寄せられていませんが、先日、5月11日、先ほど市民課長から言われた会議ですね、置賜広域行政組合の衛生主査会が開催された際、各市町の意見がまとめられたものを見たところ、住民側からは「計算上より余り入らない」などが寄せられ、商店側からは「卸のロットが大き過ぎて取り扱いにくい」などの苦情が寄せられておりますと。これを受けて、6月から卸の最低ロットを小さくする予定ですが、これは先ほど市民課長が答弁された中身です。

各家庭にある平袋タイプのごみ袋の在庫が切れてくるこれから本格的に苦情が寄せられてくるものと思われま。ごみ袋の容量については、置賜広域行政事務組合で全く同じタイプ（容量）のものを寒河江クリーンセンターから取り寄せて、平成21年6月23日に実証実験をしましたと。実際に水を入れて基準処理量のおり入るか確認作業を行いました。各ごみ袋とも基準処理量が入りましたと、こうなっているんです。

私、5月にこの資料をいただいたときに、私も、じゃあやってみようと思ってやってみたんです。ただ、これをやってみると大変なんだね、ごみ袋に水を入れるっていうのはこんなに大変なものかと思ったんですけども、こうやって入れたってだんだんだめになるんだね。しょうがないから、ここに細木を通して、つるしたら入らないので、下につくようにしてやったんですけど、入りました、30リットル。入ったんですけど、こういうふうになる、たっぷり入るんです、30リットルって。ここが結べないのよ、今度は。結ぶと30リットルならこぼれるんだ。そういう状態だったわけです。

やっぱり考えれば、その分、30リットルは私入らないのではないかと、実際、こう思うわけですが、そこはどういうふうになりましたか、市民課長、お聞かせをいただきたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 宇津木正紀市民課長。

○**宇津木正紀市民課長** 置賜広域行政事務組合で、西村山広域行政事務組合から同じタイプのものを取り寄せて、委員がおっしゃったように、「去年の6月23日、置広の駐車場で実験したというのを見ろ」と言われまして、私も確認しまして、今、高橋委員、30リッターで実験なされたということで、30リッターの実験内容が、検証の部分がホームページにありましたんで、それを見たんですが、委員は中の部分がここまで押さえられなかったというふうなことです、やはりこっち人数3人がかり、検査員含めて3人がかりでやってるもんですから、30リッターは入ったようです。

（「水は入るんです、たっぷりの状態で」の声あり）

○**宇津木正紀市民課長** 水は入って、これを結んだっていう状況で、置広の実証実験では、検証として基準処理量のおり入るか確認しましたというふうなことであるんですが、ただ、こちらの取っ手の部分というのが結んでない状況で、

+

これで中だけ結んで入ったっていうふうな検証だったということで、水は置広では入ったというふうなことで報告をしているということでございました。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** 実際やってみてください。私はやれなかったです。非常に大変だった、率直に言って。1リットルのあれを30杯入れるわけですけども、本当に大変だから、これ、1人でやると。ぜひやってください。

そんなことはいいんですけども、本当に30リットル入る、水だと入るんですけども、これ先ほど市民課長から一番最初の質問で、量が入らないという話がありましたけれど、ここは、じゃあどうなるんですか。どう検討されているのか、指摘がどうで、どのような検証をされているのかについてお聞かせをいただきたいと。

○**渋谷佐輔委員長** 宇津木正紀市民課長。

○**宇津木正紀市民課長** まず、指摘でございますが、一番具体的に市民課の方に寄せられた指摘というのは、衛生組合連合会の会長さんがもみ殻を可燃のごみ袋に入れてみて比較検討したというのが、これ水よりも実際のごみに近い形状なのかなというふうに関心したんですが、やはり古い可燃のごみ袋の方が新しいものよりも入ったというふうなことで、ごみ袋の比較でも、やはり新しい方が入らなかったということ、さらに新しいごみ袋については、もみ殻の角がとがっているもんですから、そこで裂けてしまったと、弱いのではないかというふうなご指摘いただきました。

それで、私はその内容について、6月に開かれました置賜広域行政事務組合の主幹会議で、材質を変更することを検討してほしい旨、大きさについても検討してほしい旨を申し上げましたが、そのようなことを言ったのは長井市だけでございまして、ほかの自治体の衛生主幹からの意見は出なかったということ、これが1点目

で、あとどういうふうな大きさの検討をしているかということですが、現在、置広でもやはり大きくするような検討もしているところでございます。今のタイプで検討しているということで、まず、こっちの端の取っ手の方を浅くするという、それから真ん中の縛るところをもっと長くするという、あと下の閉じてる部分を、下になるわけですが、もう少し下にしてもっと入らないかという3点について検討をしているということでございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** そうこう言ってるうちに裂けてしまったんですけど、そういう検討されているというのはわかりました。だけど、実際やってみて、もみ殻を入れるというのはすごい執念だし、敬意を表するわけですけども、実際やっぱり入らないんだと思うんだね。それはちょっと私は違うのではないかと、私どもに言ってきたことと、説明されてきたことと、というふうには感じます。

当局のこの間の説明というのは、去年の1月ぐらいから置広でやられていて、全協にも報告をされているわけですけども、「値上げではなくて、その分、容量をふやしたんだ」と、40円から50円にするものだったと思います。現にこの5月の24日の先ほどの資料にも、「値段相当分大きくなりました」というふうに触れられているわけです。

もう一つ、置賜広域行政事務組合のホームページを見ますと、指定ごみ袋に関するQ&Aというのが、そういうページがあります。この中に、「値上げになったのはなぜですか」という質問があって、次のように答えが掲載をされているわけです。

「ごみ袋の価格は、直接搬入手数料を基本として料金を設定したため、これらの状況や県内のほかのごみ袋の価格も参考として検討した結

果、平等、公平な負担という観点から値上げをすることにしました」、でここからが問題です。「ただし、単純に値上げしたわけではなく、それぞれの袋で規定の量をふやし、また要望の多かったレジ袋タイプにし、利便性の向上を図りました」と、こう触れているんです。

これまでの説明と、置賜広域行政事務組合のホームページでの答えからいえば、これ少しおかしいね。実際、容量がふえていないということなのであれば、結果として新しい指定ごみ袋、これは単に値上げをしたと、40円から50円に、ということになるのではないかと私は感じるんです。ここは市長、どのようにお感じでしょうか。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** ホームページの方、私も残念ながらチェックしてなかったもんですから反省しておりますが、今まで説明あったのは、より使いやすく、価格はそのまま、要望にこたえて新しいごみ袋をつくるんだということでした。

9月の13日のこの間、理事会があったんですけども、その際に「材質が変わるんだ」ということで、それは市民課長から話あったんですけども、同時に私の方からは、私しか発言しなかったんですけども、大変苦情が寄せられていると、事実、座談会とか、あるいは個別に「これだけは直してくれ」というようなことで電話で言われたこともありますし、あと何よりも毎日のように家族から苦情が寄せられていまして、「何でこんなものをつくるんだ」と大分言われていました、これは市民課長も言われてるそう。そういった意味では、かなり問題のごみ袋の改定だったんじゃないかと、改定っていいですか、変更だったんじゃないかと。

そんなことで、まず、置広の姿勢として、これでもうごみ袋は決まったんだということじゃなくて、少なくとも新しいものにして、1年な

いし1年半ぐらいはいろんな意見を聞いて、それに基づいていい形で直していくんだと、そういった考え方で進めていただきたいというようなことを言っております。

ホームページで、まさか値上げをしたということ表現しているというのは初めてでございます、これは早速ホームページのこれは訂正も含めて、値上げということでの今回の変更ではないというふうに思っておりますので、理事の一人として強く要望してまいりたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前 11時59分 休憩

午後 1時00分 再開

○**渋谷佐輔委員長** 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** 容量の問題で話をさせていただきましたけれども、極めて私は問題あるなあと考えています。

もう1点、新しい指定ごみ袋の形状変更の特徴点があるわけです。それは、レジ袋タイプとすることで結びやすくすることと、高齢者も持ちやすくするという点にあったと私理解しているわけですが、しかし、先ほど申し上げた広域広報おきたま、この中に掲載をされている「収集所に出すときは」という見出しの内容は次のようになっています。

レジ袋タイプに切りかわってから、ごみ袋の口を結ばないで収集所に出されたごみ袋を見かけます。収集所を汚さないためにも、左の図のように、こういう図なんですけども、「ごみ袋をしっかりと結んでください」と。「このとき

+

に持ち手の輪の部分に指や手を入れて強く引っ張ると張りつけ部分がはがれることがありますので注意してください」とされているんです。

これを強く引っ張るなど、で結べと、これを。こう結んで出してくださいと。だけど、ここに指を入れたり手を入れないでくださいというわけです。何のため取っ手をつけたんでしょうかね。何のためにこのレジ袋タイプにしたのかわかることを私は疑問を感じるわけです。

これではレジ袋タイプにした特徴点が生かされてないのではないかと私は考えますが、市民課長の見解いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔委員長** 宇津木正紀市民課長。

○**宇津木正紀市民課長** 8月15日の広報紙の3ページに記載されている部分でございますが、最後の段の「結ぶときにここの部分に指や手を入れないでください」というのは、安全性を考慮してこのようなことを記載したというふうに聞いております。

あと、「口を結ばないで収集所に出されたごみ袋を見かけます」と書いてありますが、まず長井市ではきちんと縛って出しているというふうに思いますし、この点、置広に確認しましたら、極めてまれな例であるというようなことでございますので、レジ袋としては結びやすくなったことは、これは評価に値するものではないかと考えています。前みたいにぐっと押しつけないとなかなか容易に結べないに比べると、私もごみ当番をしておりますので、実際にやってみると使い勝手については前よりは縛りやすくなってよかったというふうに思ってますし、持ちやすくなったというふうな感じも受けてますので、その点、まだ改良の余地がありますが、一定の方向としてはよくなっているところもあるというふうに考えているところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** わかりました。

先ほどお話があった材質を変えることで、ここの部分に指や手を入れても今度は大丈夫だということで理解していいですか。これ、薄いからそうなるのであって、もう一つは張りつけ部分がだめだっていうふうになってはいますけれども、それは解消されますか。

○**渋谷佐輔委員長** 宇津木正紀市民課長。

○**宇津木正紀市民課長** 今のごみ袋の問題の大きな一つは、上の結ぶところが異常に弱いと、短いということで、ここの部分を一番最初に結ぶわけですが、そこが弱いもんですから、こんな表現になってるもんですから、これを強く、材質で、それから厚くなるということですので、それから長くなって結びやすくなるので、このような表現がこのままではないのではないかといいのですが、なお、置広の方に確認して、正確なところを調査しておきたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** わかりました。

申し上げましたように、この2つの点、容量と材質の件、そしてレジ袋で持ち手があって使い勝手がいいという、いわゆる説明からは、現実的にはちょっと遠いものができてしまったわけですが、現状のこの袋というのは。

これまでの説明と実態が全く違うということ、どう私たちは市民に説明をしたらいいのだろうかという悩みわけですが、容量も実際ふえてない、それから、そういう意味では使い勝手がいいとも言えないというこの事態を受けて、市長、これどうやって市民にこれ言っていくんですかね。本当にあるんですよ、聞かれるんですけども、今までは、「いや、容量がふえたから10円上がるの当たり前」と、それから「取っ手ついたからよくなったんだ」というふうに言ってきたわけですが、私はこのままではちょっとその説明は言い切れないと感じますが、市長の見解はいかがですか。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 高橋委員がおっしゃいますように、本当に市民の皆様説明がつかない、かといって、「じゃあそれを変えます」というふうには言い切ることもできない、非常に難しい問題なわけですが、やはり私自身も含め、私ども置広の方では理事会と、あと副市長、副町長が出て参加会、それからそれぞれ課題によって違いますけども、このごみについては衛生主幹会議というのを管理職の場合であったり主査であったりという、おおむね3つの会がありますけども、やはりきちんと長井市民の意見として、住民の意見としてしっかりと意見を申し上げて、そして議論をしながら、市民の要望にこたえられるように変えていかなきゃいけないと、そのように思っております。

今までの取り組みはちょっと甘かったのかなと反省もしなきゃいけないというふうに思います。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** ぜひ置広に改善をやっぱり求めて、ずっと求めていってほしいなと思いますので、そこだけお願いをしておきたいと思います。

私、去年の6月に、「こういうレジ袋タイプと今までの平袋タイプ、両方を各家庭が選択できるようにできないか」というふうに申しあげました。そのときの答弁は「置広と協議をします」ということでしたけれども、8月にはこれ一本で決まってしまったわけです。私、申し上げた点については、もう一回再考いただきたい、そういう意味ではいい機会だと感じているわけですが、ここについて市長の考え方をお聞かせいただきたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 今までの平袋も併用して使えないかというご質問だと思いますが、ちょっとここで即答はできないんですが、ぜひそういった

要望もあるということで申し上げてまいりたいと。

それから、材質を変えた新しいものも出てくるわけですね。ですから、今までの袋もどうするかということを含めて、しっかりと長井の意見として申し上げていきたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** ぜひ、私は選択肢をふやしていただければというふうに思います。実際、山形、山辺、中山、上山は両方併用なんですね。それは各家庭の使用形態もあるでしょうからですが、各家庭が判断をして使えるようなものもぜひ選択肢の一つとして残していただきたいと思います。

3点目についてお伺いをしたいわけですが、私、導入までに、やっぱりさまざまな要望や意見があって、そして新しい指定ごみ袋ができてきたわけですが、やっぱり事前の検証であるとか、いろんな部分はかなり欠落をしたのではないかと。結果としてこういうものができ上がってしまった、それがもう4月から販売をされてしまったというふうに感じてならないんです。

これは、私は残念な結果だし、これじゃあちょっとずさんと言われても仕方ない中身だと思いますが、これら一連の経過を見て、市民課長、どういうふうに感じておられますか。

○**渋谷佐輔委員長** 宇津木正紀市民課長。

○**宇津木正紀市民課長** 材質については大丈夫だろうというふうなことで、西村山の方で使ってるという説明でした。あと大きさについては、実証実験というものをなされていたもんですから信じたということですが、こういう一連の経過を見てみますと、やはり市でも変更のあるときは実証実験が必要でないかというふうなことを感じたところですが、形状の変更とか言っているのは長井市だけなんですけど、例えばロット

+

数においても、私はことしの初めのころの主幹会議でも、お年寄りが困らないような小さな店にも販売できるように、そういう申し入れはしてるんですが、なかなか長井市の言うことを聞いてもらえないんですが、使いやすいものになるように衛生主幹会議でも議論をさらに粘り強くやっていきたいと思っておりますので、その点、今までの経過ということで感じたところでございました。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** この上に置賜広域行政事務組合議会があるわけで、そこでも議論されたんだと思うんですね、いろいろ。そういう意味では、私どもも市議会通じて3名出てますから、その皆さんにもこれからは言ってもらいたいという話をしますので、ぜひここについては二度とこういうことのないように対応をお願いしておきたいと思っております。

市長にお伺いをしますが、私は、先ほど市長の答弁でちょっと触れられていますけれども、やっぱりこれから12月まで改良していくということなわけですが、すぐにまたそれを販売してどうのこうのということをするのではなくて、先ほどもありましたが、1カ月とか2カ月とか、とにかく住民の方に実際使っていただくと、使い勝手がよいものになっているのかどうかという意見や感想をいただきながら、さらに改善点があれば手直しをしていくと、あるいは容量の問題も検討に入れていくというふうなことで、置賜広域行政事務組合で納得してから導入をしていくという意味で、「モニター制度」と、ここに書いてますけれども、そういう導入も必要ではないかと考えているわけですが、ここは市長、どうお考えでしょうか。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 先ほども申し上げましたが、9月13日の理事会において、ちょうどごみ袋の材質を変えるということでの提案がありましたの

で、材質を変えることについては了とすると、むしろ遅過ぎたんじゃないかと。

ただ、これで終わりということじゃなくて、委員の方からありましたように、広く住民の皆さんの意見をお聞きして、より使い勝手のいいものにするためにいろんな意見を求めるようにと。そして、例えばモニター制度的なものも、ぜひ公募でやったらいいんじゃないかということをご提案申し上げてまいりました。改めて次の機会にも、また参与会とか衛生主幹会議とかで、ぜひそういったことをお願いしてまいりたいと思っております。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** わかりました。

ぜひここについては、これからも言い続けていきたいと思っております。

4点目の更新時には既存のものを取りかえる策も必要ではないかということで、市長にお伺いをしたいと思っておりますが、この中で、広域広報おきたまの最後の方で、こういうふうに言っています。

「製作に当たっては万全を期していますが、不良品があった場合は新しい袋と交換しますので、千代田クリーンセンターまでご連絡ください」としています。

先ほど申し上げました置賜広域行政事務組合のホームページでは、「不良品は交換してもらえますか」という質問に対して、次のように答えています。

その内容は、「まれに製造過程で生じた不良品が出回ってしまうことがあります」。これ自身が不良品なんですけども。「不良品の場合は、新しい袋と交換しますので、千代田クリーンセンターまでご連絡ください。交換にはこちらから自宅まで伺ってお取りかえをいたします」と掲載されています。丁寧な対応だなと感じました。

このような丁寧な対応をなさるわけですから、

これとは違う新しい袋の更新時については、各家庭が在庫として抱えている袋については、当然にして新しい袋と取りかえるという策も必要なことと私は考えるわけですが、市長の見解、お聞きをしたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

既存のものをどのぐらい製造して、例えば交換する際にどのぐらい損失が出るんだというところをちょっと把握しておりませんが、私は、例えば今回、材質を変えたものをつくるということで、置広の議会の方にも提案させていただくわけですが、それで決定後、早速そういった手続をして新しいものができたという場合は、恐らく「前のものは前のものでそのままですよ」というふうに言うんでしょうけども、私は取りかえるべきだと、だったら材質取りかえる必要ないわけですから、私はそう思います。ただし、私が決定できる内容ではございませんので、ぜひそういった意見を、議論を理事会なり各会議の方で行ってまいりたいと、そのように思っております。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** もちろんここで決めるわけでないですから、それは重々承知の上、お伺いをしているわけで、ぜひ市長が答弁された内容で私結構ですから、強く要望いただければと思います。

それでは、質問の第2についてお伺いをしたいと思います。新職員採用計画についてということですが、この課題では、本年3月定例会の質問でお伺いしておりますので、今年度に入ってから取り組みと考え方についてお聞かせをいただきたいと思います。

第1点目の計画策定の進捗はについて、総務課長にお伺いをいたします。

3月定例会では、市長は「集中改革プランで300名としているわけですが、これは平成21年

度で達成していますから、この300名はできるだけ超えない範囲で、現在は295名ですけれども、採用をある程度前倒ししながら、今後10年間に大量退職するわけですから、前半にまとめて23年度採用を考えていきたい。その際には、定年退職が4名だから4名だということではなく判断してまいりたい」と答弁をされています。

そこで、この計画の策定は、現段階でどの程度まで進んでいるのか、新たな計画で示そうとしている内容はどのようなものになるのか、そして、現段階でさらに検討が必要な課題は何かの3点についてお聞かせをいただきたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 飯澤常雄総務課長。

○**飯澤常雄総務課長** お答えいたします。

計画に当たっての進捗状況についての問い合わせでございますが、現在、たたき台となるものを策定に向けて取り組んでいるところでございます。

具体的には、集中改革プラン、17年度を起点といたします22年4月が最終目標年次であったわけでございますが、このプラン終了後の次の定員計画、これらについて県内9市の動向などについて情報の交換をしているところでございます。

また、一昨日、決算総括でも佐々木委員のご質問にお答えいたしました。昨年の類似団体、平成21年4月1日現在でございますけれども、これらの類似団体の比較など、まずこれをした上で、その上で直近の本年、22年4月1日現在の定員管理調査におきます中小部門、いわゆる今まではと大部門のところ、総務あるいは衛生とか民生とか、こういう大きい部門だけの比較でしまいがちだったんですが、それから一歩踏み込んで中小部門のところまで比較の分析を進めているところでございます。

次に、計画で示そうとしている内容ということでございますが、23年度以降、これまでも議

+

会で市長が答弁なさっておりますように、おおむね10カ年という期間において職員採用あるいはある意味では定員管理ということができると思うんですが、これらの基本的な方針、そして各年度の採用人数、それから一部事務組合等、病院組合等への一部事務組合派遣職員の職員数も含めた職員総数などを定めていくというようなことでございます。

現段階について必要な課題ということですが、多岐にいろいろありますけれども、特に後ほど質問の中でありまして、高齢期の雇用問題、定年延長に向けた制度見直しがいろいろ言われて取りざたされております。これらの対応などということが上げられるのかなというふうに思います。以上です。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** そうすると、この計画策定のたたき台になるものを作成をしているということですから、3月に答弁をされた今年度の前半にということにはなっていないというふうに理解をしますが、めどとしてはどの辺まで策定を完了したいというふうに考えておられるでしょうか、あわせて総務課長に伺います。

○**渋谷佐輔委員長** 飯澤常雄総務課長。

○**飯澤常雄総務課長** 策定のめどとしては、たたき台につきましては当初内部のスケジュールでは10月ごろをめどということにしておりましたが、正直申し上げておいております。年内にたたき台なるものを何とか練り上げたいなど。最終的には現計画の状況もそうでございますが、現計画は18年度が初年度でございます。17年4月を基準年度といたしまして、たしか策定が年明けたと思うんですが、18年2月ごろだったと思いますが、少なくとも年度内、これはもちろんでございますけれども、には策定という形でいきたいというふうに考えております。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** わかりました。

そうすると、答弁の中にある「23年度採用に生かしていく」ということにはならないということになるのでしょうか。だとすると、23年度のこの職員採用の考え方についてお聞かせをいただきたいと思います。これは市長でしょうか。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。23年度の採用につきましては、3月定例会でも申し上げましたように、今年度は4名の定年退職でございますが、4名に対して4名採用ということじゃなくて、4月1日現在で292名になっておりますので、そこから300名を超えない範囲で採用したいということで、10名程度という上級職、これは一般上級、それからUターン、Iターン、それから初級、それから保健師と、合わせて10名程度ということで申し上げたところでございます。そこに希望退職の方が大量に出た場合は、そこは配慮しなきゃいけないだろうということで、23年度の採用を検討しているところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** わかりました。新たな計画にやっぱりスムーズに移行できるようにここは配慮して進めていただきたいとは思っているんです。決して無理しないで対応をお願いしておきたいと思います。

もう一つですけれども、定年退職の年齢の関係で新たな考え方が示されているやにお聞きしているわけですが、それについての内容と、それを市はどう考えているのかについて市長からお聞かせをいただきたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

人事院の方で今出されておるのは、段階的に65歳まで定年を延ばそうというもののようでございます。ただし、3年ごとに1歳ずつ上げるということで、ある程度時間をかけて65歳までにすると。ただし、条件としては給与を30%カ

ットするなり、あるいは役職を停止させるなり、そういった要件を踏まえたものを今のところ案として出しておられるようです。それに対して市としては、これも定員の中に含まれますので、そうした場合に果たして長井市はそういう対応をとっていった方がいいのか、ある程度国の人勧で定められたものは、これ重視しなきゃいけないんですが、そうしますと若い職員といいますか、新規採用を抑えなきゃいけないという課題がありますので、これらについて国の動向を見ながら慎重に、そして長井市に合った採用の仕方を検討しなきゃいけないと思っております。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** わかりました。ちょっと不確定なところもあるんですけども、新たな制度ですから導入についてはぜひ職員団体とも協議を重ねて、よりよい方向性を目指していただきたいと思っております。

最後にですが、5年後の大量退職に対する考え方について伺いをします。私は、ちょっとこういう特定の仕方よくないんですけども、3月に「職員構成がこうなってますよ」という図を見せていただいたわけですが、昭和29年に生まれた職員が職員構成上は多いということになっておりまして、これ、この人たちが退職するとき大変になるんだなど、こう感じています。まして今は市の中核をほとんど担っておられる方々になるわけで、行政サービスなどに影響が出ないようにというところも考えていかなきゃならない課題だと思っております。

私は単純にこれ5年後にそうなるんだというふうに思っていたんですが、そこは果たしてどうなのかというのはちょっと今の定年の問題でわかりませんが、そこをひとつ教えていただきたいのと、市長は「一人前の職員にするには最低5年、できれば10年、それぐらい職員を育てないといろんなところに対応できる職員にはならない」と答弁をされているわけですが、そうい

う意味から言えばかなりその時点を見通した前の段階からの対応がないと、実際は住民サービスにはいろいろ影響が出てくるのではないかと、あるいは行政執行上の問題も出てくるのではないかと考えられるわけです。そこは市長、見通しとしてどうとらえておられるのか。今の段階で考えておられること、対応策あればお聞かせをいただきたいと思っております。

○**渋谷佐輔委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 高橋委員おっしゃいますように、5年後がピークなんですけども、実は2年後から10数名ずつこれから五、六年続きます。そうしますと、恐らく10年間で143名とかっていう人数なんですけども、その前半の5年、6年ぐらいで70名ぐらいが退職されるのかなど。そうしますと、今の管理職の大部分あるいは補佐職とか中堅で頑張っていたいただいている主査とか、そういった方々であります。なおかつ、男女比でいいますと圧倒的に男性が多いという年代でありますので、そういった意味では非常に危機感を持っております。

そんなことから、本来であれば今後10年間の採用計画をしっかりとお示ししながら議論を進めていくのが正しいとは思いますが、私個人といたしましては、非常に将来の定員をどのあたりで定めたらいいかというのが若干もう少し検討しなきゃいけないなと思っておりますし、加えてちょうど私の任期が切れるということもありまして、それらについては改選後に最終的に決定すべきだなというふうに思っておりますが、できればこの5年間で10名とはいわず、ある程度もう少し採用していけないと対応できないじゃないかなど。佐々木委員からも一昨日ございましたように、質の高い職員を育てるという意味からもこれは重要な課題だと思っております。

○**渋谷佐輔委員長** 10番、高橋孝夫委員。

○**10番 高橋孝夫委員** ありがとうございます。ぜひ無理のない範囲で、できるだけ早く対

+

応に着手をいただきたいということを申し上げて、質問を終わります。ありがとうございました。

## 我妻 昇委員の総括質疑

○**渋谷佐輔委員長** 次に、順位3番、議席番号3番、我妻 昇委員。

○**3番 我妻 昇委員** よろしく願いいたします。

一般質問でも同じような質問をさせていただきましたが、どうも私の納得いくような答弁ではなかったし、常任委員会でもいろいろ詳しくやりとりをさせていただきましたけれども、そこでもなかなか納得できなかったものですから、ここの予算総括でまた再びというふうになっております。

タスの建設、当時は私はたしか高校生だったと思いますけれども、本当に長井が将来明るいなと、都会になっていくんじゃないかなというふうにわくわくした記憶があります。オープニングセレモニーに参加というか、お祭り騒ぎだったものですから、行ったときにもすごいものができたなと本当に思ったものです。

都会的なところと田舎を残してるという、この長井市は非常に両方が同じように共存できるいい田舎というんでしょうか、いいまちだなというふうに思っています。今でもその思いは同じなわけで、タスパークホテルというのは長井市にとってシンボルだし、より公共性が高い建物だなというふうに私も認識しておりまして、ぜひ守っていききたいなというふうに思っております。

若者定住促進センターというのは解散したわけですけども、今まさにそういう機能というんでしょうか、若者に夢を与える施設になるべ

きでないかなというふうに思います。商工業の発展はもちろんですけども、いろんな子育て施策でもいいですし、いろんな産業の発展や3万人復活というような事業もそうですけども、タスパークホテルをそういったシンボルにもするというのが、ここでまた改めてそういうふうを目指すべきではないかなというふうに思っております。私はぜひこの取得に賛成したいというふうに思っているんですが、なかなか私の思う答弁が得られないものですから、しつこくなりますけれどもまたお伺いするものでございます。

まず最初に、9月補正ではなく、来年3月補正で対応した場合、商工会議所の運営にどのような影響があるのかということで、15年間のシミュレーションを常任委員会でいただきました。高い目標を立てて頑張るんだというような姿勢があらわれているんだと思います。高過ぎるとも若干言えるところもあるんですけども、これから頑張ってホテルの方も商工会議所そのものも頑張って立て直していくんだと、利益を上げていくんだという意気込みが感じられるシミュレーションだと思うんですが、もしもこの9月の対応でなくて来年3月の年度末の補正予算あるいは23年度当初予算でもいいんですけども、そこで対応した場合は、このシミュレーションというのは実際どのように変わってくるのかと、商工会議所の運営にどのような影響を与えるのかということ、商工観光課長にお伺いいたします。

○**渋谷佐輔委員長** 齋藤理喜夫商工観光課長。

○**齋藤理喜夫商工観光課長** お答えいたします。

計数的な面からいいますと、今回と3月の場合の比較ということになりますが、長期債務の返済につきましては9月と3月の年2回に分けてやっているというふうなことでございます。実際上は難しい部分はあるんですが、仮に3月の支払いの時期までに金融機関との条件変更の